

北信越支部事業の報告

< 報告 >

行事名：新潟地区講習会

題 目：新潟地区「積雪調査法講習会」

日 時：2003年2月22日(土)

場 所：長岡市栖吉町前山 (独)防災科学技術研究所長岡雪氷防災研究所

共 催：(独)防災科学技術研究所長岡雪氷防災研究所

講 師：遠藤八十一(国際雪形研究会)，佐藤和秀(長岡高専)，佐藤篤司・納口恭明・石坂雅昭・山口悟(防災科学技術研究所)，河島克久(鉄道総研)，竹内由香里(森林総研)，根本征樹(新潟大学災害研)，田村盛彰(田村雪氷計測研)

受講者：20名

2002年度新潟地区「積雪調査法講習会」を長岡雪氷防災研究所で実施した。暖冬で実習に必要な積雪深の確保が危ぶまれたが、全層ザラメ雪ながら約60cmの積雪、曇天の中、無事実施することができた。午前は積雪の測定法・機器の取り扱いなどに関する講義と研究所内諸設備見学。午後の野外実習は積雪断面観測，含水率計測，硬度計測，雪崩ビーコンの扱いなどを実施した。

受講者は総数20名，内訳は大学生5名，一般13名，正会員2名であった。受講者の居住地域は，新潟県内15名，東京都1名，長野県4名であった。職業別では，学生，会社員，建築・建設業，消防，調査会社など多岐にわたった。

受講目的は様々で，道路除雪，消防災害，家屋の雪処理，電力輸送など現実に即した問題を抱えていた。従来やってきた積雪深・降雪深計測のレベルから脱皮したいとの意欲に満ちて参加していた。実施後の感想は，満足した講習だったとの報告が多かった。

受講者数に定員制を敷いた1990年冬以来13回目の講習会となったが，修了証の交付者数は延べ

201名に達した。この講習会は会場の利便性もあって、参加者数は安定しており、今後も持続できるものと考えられる。尚、今回の講習会に際し、ご多忙の中、手弁当で指導された講師・幹事の方々に厚く感謝し、敬意を表します。

(北信越支部理事・講習会担当 田村盛彰記)

<報告>

行事名：北信越支部共催事業

題目：第8回全国学生のための信州雪崩講習会

講師：新田隆三，元村幸時，マーク・ライアン，
則座勝己，伊東義景

主催：信州大学農学部附属アルプス圏フィールド
科学教育研究センター

日時：2003年3月6日，7日

場所：長野県安曇村，乗鞍高原温泉スキー場

参加者：学生12名，一般13名，安曇村民12名，
計37名+スタッフ5名

学生の雪崩事故を少なくするために毎年3月長野県白馬村や小谷村で細々と開催していた本講習会を、今年は思いきって安曇村に移した。1月に安曇村白骨温泉スーパー林道で死者こそなかったもののバス，乗用車，救急車など乗客と車両が表層雪崩に巻き込まれる事故があり，その後村当局が雪崩対策行事に協力を惜しかなかったからである。今回は信州大学主催の公的行事になった。

6日，晴。午後1時半，国設ゲレンデ最上部にて森林と積雪の関係を説明。特に広葉樹の枝が開いて埋まっている間は雪崩が起こりにくいことなど，雪面に先端が見える「雪上木」の本数に注意を喚起した。その後積雪の断面観測，スクラムジャンプテスト，ハンドテスト，埋没体験など一通りのやり方をデモンストレーションし，参加者には特にハンドテストを何回もやってもらった。夜は村営の宿舎に移り，ビデオと資料を使っての「雪崩の基礎知識」机上講習。あとはビールで交流を深める。

7日，雪。午前9時降雪センター付近にて3名1組で埋没体験を全員にしてみよう。雪の中で音がきこえるか？孤独感は？自力脱出は出来そうか？

その後スカッフ&コール，ゾンディーレンと一応救助犬なしの原始的なメニューをこなす．最後はビーコンの訓練で4班に分けた．初心者，中級者，デジタルビーコン班，上級者．この上級班では登り返しをしないで確実にピンポイントまでたどりつくことを目標とした．近い将来，ゾンデ棒なしの2種の神器「携帯スコップと精密ビーコン」の時代が来るという予感もした．昼食後は早大，日大，ICU，学習院，新大，など各グループに感想を述べてもらってから解散．割安で実戦的な雪崩学を学べた，というのが大方の評価である．斯くして私にとって雪崩教育30年目の雪中講習シーズンは終わった．

(信州大学農学部 新田隆三 記)



図1 講習会実習風景(雪の含水率計測)



図2 樹木のまわりの積雪断面を観察する